

平成23年度鹿児島市学校教育研究大会 研究実践経過中間報告

鹿児島市立松元中学校

1 研究主題

研究テーマ

表現力を高める学びの場の工夫・改善を通して

2 研究主題設定の理由

(1) これまでの研究実践から

本校では、平成20年度から研究主題を「自らの課題を見つけ、意欲的に解決しようとする生徒の育成 ～表現力を高める学びの場の工夫・改善を通して～」として昨年度まで研究を進めてきた。内容としては、研究主題に基づいた各教科ごとの研究テーマを設定するとともに共通実践事項を設けて、教科内での実践を確実なものにしようというものだった。その結果、学びの場の工夫・改善への意識が高まり、研究授業などでも表現力を高めるための指導の工夫が図られるようになってきた。しかし、現在、教科研修が深まりつつある段階で成果が出てきている反面、まだ課題も多いため、さらに生徒一人一人の表現力を高める指導法改善に取り組んでいく必要がある。

(2) 新学習指導要領から

新学習指導要領では、「生きる力」が理念として掲げられている。各学校において生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないと記されている。そこで、表現力を高める指導法改善に取り組むことにより言語活動の充実が図られ、思考力や判断力の育成にもつながると考えられる。

(3) 生徒の実態から

本校の生徒は、素直で明るく、生徒会活動や学校行事にも意欲的に取り組んでいる。授業にもまじめに取り組む生徒が多いが、自ら課題を見つけて意欲的に取り組む姿勢や家庭学習の定着については課題がある。また、これまでの標準学力検査等の分析では各教科から、「自分の考えを持つ、書く、話すといった思考力・表現力」の不十分さが問題点としてあげられている。

以上のことと、「豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身に付けた調和のとれた生徒を育成する」という本校の教育目標を踏まえ、生徒一人一人の表現力を高める指導法改善の研究・実践を推進し、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する必要があると考え、上記の研究主題を掲げた。

3 研究内容

- 表現の場を取り入れた授業の工夫・改善
- 家庭学習の充実を図るための宅習の進め方
- 朝読書の効果的な活用

4 校内研修（実施分）

月 日	分 野	主 な 研 修 内 容
4月19日	研修計画	平成23年度の校内研修計画の策定と確認
5月6日	生徒指導	生徒の共通理解
5月9日	教科指導①	教科テーマ研修（テーマ設定・年間計画策定）
5月23日	学校評価	学校評価の検討・見直し
6月13日	教育方法①／教科指導②	標準学力検査の分析，通知表の検討・見直し
6月27日	教育方法②	通知表，評定基準の検討・見直し
7月7日	特別支援教育	特別支援教育に関する情報交換
8月1日	情報教育	教育機器の活用法
8月1日	保健指導	心肺蘇生法・AEDの使用法
8月19日	特別活動①	学級経営
9月5日	道徳	指導法・情報交換
10月11日	人権同和教育	人権同和教育に関する情報交換
10月24日	生徒指導②	生徒指導講話

5 研究の実際

（1）教科指導研究内容

教科	教科研究テーマ	共通実践項目
国語	思考力・判断力・表現力を育成する指導法の工夫	① 学習目標の提示 ② 基礎・基本定着のための小テストの実施 ③ 指導目標を明確にした言語活動の工夫
社会	基礎・基本の定着を図り，自らの言葉で表現する力を養うための授業の工夫	① 学習目標の提示 ② 小テストの実施 ③ 思考力を高め，表現する場を取り入れた授業の展開
数学	主体的に学習に取り組む生徒の育成	① 小テストの実施 ② 視聴覚機器の効果的な活用 ③ 学習目標の提示方法の工夫
理科	基礎的・基本的な知識と技能の定着を図り，科学的な思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実	① 学習目標の提示 ② ポストテストの実施 ③ 考察・まとめの段階における支援の工夫 ④ ICT機器の活用
英語	基礎・基本的事項の徹底を図る指導法の工夫	① 学習目標の提示 ② 確認テストの継続

		③ TTの指導略案の作成 ④ 学年に応じた宅習指導と見届け
音楽	音楽学習に自主的に取り組み、音楽を愛好する豊かな情操を養う ～各種行事等を活用した音楽教育への取組～	① 学習目標の提示 ② パートリーダーの育成 ② 表現の意欲を養う ④ 音響教材の積極的な活用 ⑤ 鑑賞教材の推進
美術	自らの思いを意欲的に表現する力を身につけさせるための授業の工夫	① 学習目標の提示 ② 個別指導の徹底 ③ 視聴覚機器の効果的な利用
保健体育	自らの課題を見つけ、意欲的に解決しようとする生徒の育成 ～課題把握と課題解決の場の工夫～	① 教材・教具及び学習ノートの工夫と改善 ② チームやグループを生かした活動の展開 ③ 新体力テストの結果をもとに体力の向上を目指し、学年単位で補強運動に取り組む。
技術・家庭	生活に必要な知識・技術を習得させそれを応用して工夫・創造する能力および実践的な態度を育成する	① 学習目標の提示 ② 教材備品の整備（新学習指導要領実施に向けての準備） ③ 施設設備の充実

6 取組を振り返って

表現力を高めるために、各教科での教科研究テーマを基に共通実践項目を設定し、学びの場の工夫・改善に取り組んでいる。各教科内で共通に取り組むことで、お互いに課題を共有し意見交換でき、着実な実践に結び付いていきつつある。

今後も各教科の研究授業等が予定されており、それらを生かして教科研修を深め、確かな実践となるよう取り組んでいきたい。